

医療ルネサンス

No.5779



大腸がんの転移

5/5

Q&A



がん研有明病院消化器センター下部消化管担当部長 上野雅資さん

金沢大医学部卒。専門は消化器がん、大腸がんの外科治療。消化器がん手術の執刀数は約2500例。うち腹腔鏡による大腸がん手術は約800例に上る。

大腸がんの再発や転移の治療について、がん研有明病院消化器センター下部消化管担当部長の上野雅資さんに聞きました。

——どのようなケースが多いのですか。

「多いのは肝臓や肺への転移です。特に肝転移は大腸がんの患者の5分の1に見つかります。脳や骨への転移はほとんどありません。大腸の中でも肛門に近い下部直腸のがんの場合、手術した周辺で再発する『局所再発』もしばしばあります」

——一般的に、がんが転移したり、再発したりすれば治療がかなり難しいというイメージがありますが、大腸がんはどうですか。

「治療後の5年生存率は、

近くのリンパ節だけに転移があるステージ3なら75%と高く、遠く離れた臓器などに転移があるステージ4も、10年前は10%でしたが、最近は手術だけでなく、放射線や化学療法などを加えた総合的な治療により、20~30%に上がっています」

「大腸がんの化学療法はたが、最近は手術だけでなく、放射線や化学療法などを加えた総合的な治療によると新しい薬が登場し、選択肢が増えました。1990

年代は、化学療法でがんの大さが半分になる患者は約2割程度でしたが、今は約8割に増えています」

「重粒子線治療は、通常の放射線治療よりも重たい粒子をがんにピンポイントで当てるため、直腸周囲の臓器への影響を最小限に抑えて治療ができます」

「また、同じ肝転移でも、場所によつては切除が難しいことがあります。化学療法を行うことでがんが縮小し、切除できるようになります」

——直腸がんの局所再発は治療が難しいですか。

「当院では2000年から術前の放射線療法を導入し、それまで20%だった局所再発の頻度は6%に下がっています」

「とはいっても、局所再発が起きると、再手術しても治療成績は良くありません。特に、最初の手術で広範囲に切除している場合ほど成績は悪くなります。そこで、非常に高額な自費治療ですが、他病院で行っている重粒子線治療を勧めることもあります」

「肝臓のような再生能力はないので、すぐには切りません。大腸がんの肺転移は増殖速度が比較的遅いの

あるからこそ、手術を行つて取り切れない場合は、再手術を行うこともあります」

「肝転移の治療成績を教えてください。」

「例えば、当院では肝臓に再発した患者の約70%は手術が可能で、うち約60%は完治しています。転移が1個なら約80%は治ります。肝臓は再生能力がある

で、経過観察か、化学療法（次は「股関節脱臼」です）

(藤田勝)